

## 四旬節第一主日

イエスの誘惑

ルカ 4・1-13

2013. 2. 17 9:30 ミサ

オリビエ・シェガレ

(パリミッション会司祭)

今日は誘惑の話が出ている。身近な話題でしょう。私たちが生きている現代、昔よりも誘惑が溢れる時代でしょう。現代人は前の世代の人と比べて意志が弱くなり、自制心が変わったということが時々言われるが、そうではない。私たちはより多くの誘惑にさらされていると言った方がいい。コンビニに行けば24時間、いつでも様々の品物を買えるし、欲望を刺激するような情報や映像が氾濫していて、誘惑に負けてしまう契機が増えたでしょう。

ところが、今日の聖書のテーマであるイエスの誘惑は一体何だったのでしょうか。数十年前に「イエスの最後の誘惑」という映画があった。イエスはマリア・マグダレナという女性の魅力に負けたというような内容。男性中心の昔の社会では、女性は最大の誘惑のきっかけだと思われた。だから特に司祭にとって女性は悪魔のように避けられるべき存在とされていた。しかし、今日の福音箇所をよく読むと、イエスの感じた誘惑はそれとは全く関係ないということがわかる。ではイエスの誘惑は、何に対しての誘惑だったろうか

まず注目したいことですが、イエスの誘惑は聖書の他の物語に出ている誘惑によく似ています。聖書の誘惑の話は何かの始まりの時に必ず出ています。人類の始まりの時にアダムとエヴァの誘惑があり、エジプトを脱出して荒野の長い旅を始めたすぐ後、イスラエルの民は神への信頼を失い、金の子牛を拝み、偶像崇拜の誘惑に負けてしまいます。

私たちもそうだが、何かを始めると誘惑に遭うことが多い。例えば、大きなプロジェクトを始めたら、途中であきらめて責任から逃れたいという誘惑。結婚生活を始めると相手を裏切る誘惑。商売を始めると、いかにお客さんを騙して儲けるかという誘惑。

イエスの誘惑が聖書の誘惑に似ているもう一点ですが、聖書の誘惑のもう一つの類似点は、誘惑そのものは悪いのではないという理解の仕方、ということ。誘惑は試みであり、テストであり、誘惑に打ち勝つことによって人間の意志が、

人間の信仰が強まってくるという信念。私たちは「主の祈り」で誘惑に陥らせないようにと願うが、それは日々の小さな誘惑のことではなく、私たちの力を超えるような誘惑に陥らせないようにしてくださいという意味のことでしょう。

イエスの誘惑に戻るが、三つが出ていますね。

第一の誘惑は「この石がパンになるように」。ここでのパンの意味は物質のパン。苦勞せずにパンを増やし、皆の腹を満たせば、あなたは皆から好かれ、認められるし、楽な生き方できるだろう。このパンはお金の象徴でもあると思います。この石をお金に変えて、この国の経済を豊かにすればどうだ、と。しかしイエスはこの誘惑を退け、数年の後、十字架に向かう道の途中、群衆のためにパンを増やす。このパンは腹を満たす物質のパンでも、お金に変わりうるものでもなく、命のパンであり、十字架に捧げられたイエス自身の体である。ミサに与るたびに私たちはこのパンを受け、このパンを食べ、このパンに生かされている。

第二の誘惑は「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。私を拝むなら」。権力に対する誘惑。政治家にでもなって暴力あるいは世論の操作によって政権を奪い取り、世界の矛盾を解決し、民衆の期待通りの救い主となる。しかしイエスは権力の道に入る誘惑を退け、受難の道を選び、暴力ではなく、愛をもって皆の心を支配するような王となる。

第三の誘惑は「神の子なら神殿の上から飛び降りたらどうだ。天使があなたを守るだろう」。この三番目の誘惑は悪魔による一番巧妙なお誘いではないか。さっきの経済や政治ではなく、宗教に対する誘惑だ。メシヤのように振る舞い、天使があなたを守れば、皆が喝采して、あなたをメシヤとして信じるだろう。あるいは怪しい現代の教祖のように奇跡を約束して神の力を売り物にすればどうだという誘惑。残念ながら今でも奇跡を目玉商品にして勧誘活動を続け、人を騙す宗教は多いようだ。しかしイエスは神を試してはならないと言う。その後も度々人々から奇跡が求められても、信仰がなければ断る。逆に、信じている人に向かってあなたの信仰があなたを救ったと、安心して行きなさいと癒してくれる。

イエスが感じた三つの誘惑は、まさに現代社会に生きている私たちの根本的な誘惑ではないかと思う。お金がお金を生み出すような経済システムを維持し、お金が全てであると信じて、それだけに頼ろうとする誘惑。弱い人の権利を踏みにもじっても、自分の安全の確保さえ保証されたら、強い政治を支えようとする

る誘惑。宗教に利益を求め、奇跡を願い、神のめぐみや慈しみを自分中心に祈ろうとする誘惑。

実はこの三つの誘惑は一つの根源的な誘惑に還元できる。それはアダムとエヴァの誘惑でも、荒れ野の中の民の誘惑でもある、神のように全能になろうとする誘惑。全能になって、自分の都合のいいように経済、権力、宗教を動かすという誘惑。自分は全能であるという幻想を持つことです。イエスはこの幻想を打ち破り、三つの誘惑を退け、小さき人々の側に立ち、お金や政治権力や奇跡に頼らないで、十字架の道を選んだ。このイエスの選択は弟子である私たちの選択でもあります。選択！最後に若者の心を引きつけ、私が好きな浜崎あゆみさんの歌 Talkin' 2 Myself のリフレーンを思い出す。

「情報が誘惑が溢れてるこんな時だからこそ、僕たちはそれぞれの選択をして行くべきなのだろう」。誘惑が解決できる秘訣は、選択だ！

洗礼を受け、イエスの弟子である私たちの選択は何でしょうか。それを見出し、決意して、聖霊の導きを祈りたいと思います。